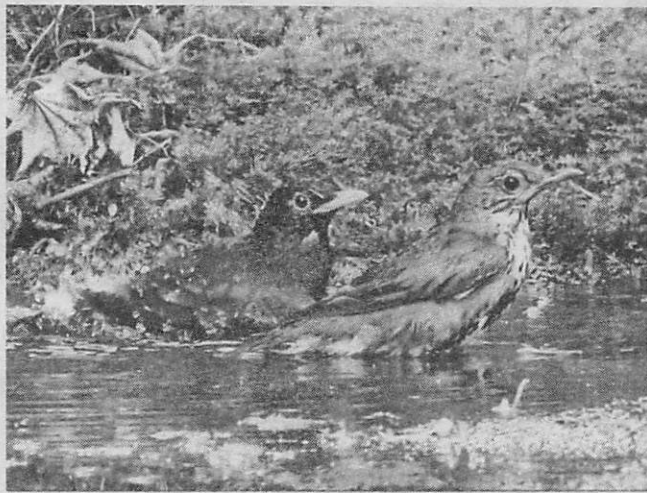


# 「クロググミのカップル」

林 孝行(富士宮市大岩)



丸火自然公園駐車場 いた夏鳥であるクロググミの撮影に出かけ、前から気になってた。というのは、石塚

徹著「歌う鳥のキモチ」念願のオスがメスの周と10%くらいは夫以外任  
という本の中でクロググミを警戒するように現の遺伝子が入っているら  
グミ(オス)の「私生活」を観察したのであった。とのこと。一部のメスえ

活)に関する内容が面白く、興味を持って読んでいた。観察していると、何は自分のパートナーよ  
白く、興味を持っていないとなくメスの機嫌を損り優れたオスが現れた  
たからだ。場合によっては婚外交尾を受け

成長したクロググミながらそっと後ろから入れらうしい。鳥類で  
のオスは前年と同じ場水場に入り、一緒に水は40種類以上で実際に  
所で縄張りを占有する浴びを開始したのであ確認され、知られてい  
とのことなので、昨年だった。これが、その時とること。ウーン恐  
見かけた公園内の場所の写真である。何しろるべし勇敢なメスたち  
で現れるのをじっと待鳥類の多くは、結婚のよ。クロググミたち  
つことにした。数日通決定権はメスにあるらも例外ではないとの記  
ったある日のこと、樹しい。述あり。

上でクロググミらしきちなみに、ある調査このカップルがめで  
声が出た。来るぞ。によると、鳥は一夫一たたく結ばれ、自分たち  
すると近くの水場にク妻制を厳格に守る動物だけのDNAが引き継  
クロググミのメスが水浴と思われていたが、Dがれるよう祈るばかり  
びに現れた。そして、NA検査で卵を調べるだ。

## フォトギャラリー